

# 心 碩

可行 認 會 風 學 院 吟 詩 日 本 法 人 社 團  
 神 奈 川 碩 心 會

4年区 逗子地区 葉山地区 大船地区 (合計)	4月現在 1652 2474 480	員数名 578 480	4年号(237号) 発行 根岸集 中編村岳	萃者 愛者
-------------------------------------	-----------------------------	-------------------	--------------------------------	----------

創立55周年記念

## 第101回全国吟道大会に参加して

村田澗岳

雨の音に目をさまし、急いで集合場所の駅に向う。初めて行く東京ベイNKホールを、色々想像しながら雨の中をチャーターされたバスに乗り到着。指定席なのであわてることなく席に着く。十時前には殆んど着席し、会旗入場、修礼、国家斉唱、朗詠、開会の辞と続き、式典が始まる。

「吟道」3月号に書かれた岩手県大船渡市立末崎小学校で詩吟を習っている学生三人の吟が紹介され、あまりのすばらしさに感動し、われんばかりの拍手がおくられました。

20名による、30組の連吟コンクールには、神奈川県本部より4組が出場し、3組が入賞、文部大臣賞を横南吟道会、副理事賞を綾瀬幸吟会、町田吟道会が受賞、神奈川県本部の熱意を示し、私達も誇りに思いました。

次に3名による、20組の連吟コンクールがあり、どれも甲乙つけがたく、あれこれ批評しながら力が入り、美しい声に聞きほれてしまいました。

待望の構成吟「花と鳥」と題して、全国から選ばれた方達の吟により、華道吟に、詩舞にと、目をみはる思いがしました。その中で各地方の方達による大合吟があり、神奈川県は「菊花」と「山ざくら」を千人の大合吟で満場を圧倒しました。

又神奈川県から詩舞「桜花の詞」が出ました。出演の皆さんの話によると、最初は真中の広いフロアで舞うのでなるべく多勢の出演依頼があり18人参加したが、色々変更になり又舞台装置などにより舞台が狭くなり、苦勞したとのことでした。

一日中力を入れて聞いたので、少々疲れ、雨の中をくもの子を散らすように家路に急ぎました。すばらしい吟を聞き、自分の未熟さを思い、勉強の意欲の湧く一日でした。

## ◎ 五月行事予定

(碩心会皆伝会)

とき・5月5日(祝)11時より

ところ・堀内会館(海岸廻りバス元町下車)

(神奈川県本部総会)

とき・5月10日(日)

ところ・横須賀労働センター

碩心会55周年記念大会

構成吟・演者さま

右大会が近づいて参りました。構成吟「松井岳洋先生を偲ぶ」というタイトルで、左記の通り、吟、演者がままりました。

(スライド)

映写 熊沢岳昌先生

ナレーター 佐久間爽岳 西山蓉風

書 懐 (吟) 沼田昇風 一柳良風

田原坂秘唱(吟) 鈴木葉風

千島慕情 (吟) 奥野敏風

小楠公 (吟) 立沢御岳 村井知風 西川幸風

市瀬江風

(詩 舞)

舟艇守の (舞) 綾部秋岳 磯村朋岳 菊池祐風

尺八 島津幸風 高橋之山

(吟) 内山俊岳 松井正風

花の (舞) 中村岳愛 一之瀬汀岳伊藤峰風

源義経 森谷千山 五十嵐瑠璃子

(吟) 上村象岳 鈴木濤岳

(舞) 小林紫風 佐藤湧岳 大石春岳

椰子の実 白井麗岳 白井照風 杉本恵風

(吟) 加藤芳風 根岸啓風

(書道吟)

四時 吟 根岸岳萃

書 中村岳郵

(華道吟)

華岩崎恵岳 石渡桂岳 石戸倫風

関水滄岳 清田燭岳 三壁照風

吟 森 晴風 山上良風 加藤玲風

大前曜山 駒場咲山

高令者表彰

55周年大会に80才以上の左記の方々表彰されます。50周年に表彰された方は除きます。

根岸秀岳84才 平山祥岳84才 横瀬秀風84才

佐藤雅風84才 角田梅風84才 森田嶺岳82才

伊藤朗岳82才 平 信山82才 飯田愛岳81才

中村国風81才 斎田俊岳80才 坂本美風80才

小西勝風80才 松下光泉80才 (以上14名)

構成吟リハーサルについて

前記構成吟のリハーサルを左記の通り行います。御都合つけて参加、御協力をお願いいたします。

とき・5月16日(土)午後6時より

ところ・逗子市立図書館ホール

葉山町詩吟舞連盟結成

懸案となっていた「葉山町詩吟舞連盟」が諸先生のお骨折により結成、三月三日付で葉山町教育委員会に届出、正式に認可されました。

この連盟は葉山町内に教場を有する詩吟、詩舞団体を以て組織し、会員相互の親睦交流を計り、吟舞道の普及と、社会文化の向上発展に寄与することを目的としており、葉山町葉山町教育委員会の後援をいたぐ団体であります。今後、連盟の主旨を深く理解し、発展の為に、皆様の一層の協力を賜りたいと思っております。

(所属団体)

碩心会 横南吟道会

東芝ライテック

京愛会 葉山紫舟会

(役員)

理事長 根岸岳萃

副理事長 加藤岳相

事務局 中村岳郵記

# ザンボの海は蒼かった

下山口支部 沼田隆岳

飛行機の爆音が急に静かになり、着陸準備に入ったなと思ひ窓外をみれば、赤、青の人家の屋根が点々と視界に入ってくる。海をみれば波はなく、海の蒼さだけが目に泌みる。

平成三年九月四日、私達総勢30名は、七泊八日の日程で、戦友会墓参のため、成田空港を出発、その日はフィリッピンルソン島、マニラ空港に着陸し、マニラ泊り。そして翌五日マニラを出発し、マンガナオ島ザンボアンガ空港に着陸したのであった。

出発直前の九月一日夜、荻三六一比島会、飯島会長より電話があり、弟に当時の状況を説明して「田中大隊の詩」を作詞してもらったので、碑前で是非やってくれとの依頼がありました。見たことも聞いたこともない詩をぶっつけ本番で、皆様の前で、やるのは無理と思ひ、おことわりしたところ、それではと、二日早朝、拙宅まで届けて下さいました。時間的に明後日出発のことであり、早速コピーして、符付の完璧を期するため、中村先生夫

妻の協力を得て、やっと出発までに間にあいました。そして現地慰霊碑の皆様の前でやらせていただきました。

(後日譚)

帰国後、会長さんより連絡があり、部隊長夫人から家宝にしたいので、是非テープをほしいとの依頼があった旨を知らされ、びっくりして、先生に吹き込んでもらいましょうと言ったところ、その必要なしとのことで、生還者の沼田さんのがほしいとのことでした。そして平成四年二月二十九日、川崎市立産業振興会館に於て、味の素OB会の会同おさらい会がありましたので参加し、その時やらせていただいたものを送りました。

## 田中大隊の詩

雑賀太郎吉作

敵軍未襲す我が堅陣  
衆を頼み陸海空より盲撃す  
部隊一丸悉く勇戦したり  
激戦数日に及び戦運薄し  
鮮血淋漓熱砂を染め  
壮絶散華するもの幾百人  
卒先陣頭大隊長  
夜陰潜行敵陣に迫る

## 碩心会支部別会員数一覧表

(平成4年4月現在)

地区	大船	船	地区	大船	船	地区	大船	船
逗子 A	57	12	葉山 内堀	87	35	大船 A	18	6
逗子 B	12	8	葉山 色色	18	6	大船 B	7	17
逗子 山	8	9	葉山 一星	17	6	大船 塚和		
桜山	14	13	葉山 上木	14	13	大船 松		
沼山	13	7	葉山 唐下	13	12			
山ノ	30	15	葉山 吟山	12	6			
銀真	7		葉山 上坂	14	8			
葉若	15		葉山 滝早	11	11			
			葉山 風訪					
			葉山 諏					
9 支部	165	13 支部	247	4 支部	48			
(計 26 支部)			460 名)					

戦果甚大なるも人は還らず  
無限の春風怒み未だ消えず  
遺勲千載青史に列し  
忠列永遠に尻孫に伝う

大船 B・吉田テイをていに訂正  
(氏名の訂正)

(住所変更)

逗子 A・小林佐山住所、電話左記の通り  
(住) 葉山町長柄八九一―二  
(電) ○四六八―七六一三〇四

練吟

句またがり

メモ

(一) 尋胡隱君 高 啓

渡水復渡水 看花還看花

春風江上路 不覺到君家

この五言絶句は誰もが暗誦しているので白文

「」は説明上付記で掲げた。漢詩特に唐詩は、詩語の配列が平仄(発音)に従って嚴格

に規整されているので、中国音での朗詠は最高に音律が整っている。しかるに現代日本の

漢詩の吟詠は、右に掲げたように二句を三息で吟ずることとなっている。偶数句の上二字

を前句に続けて句またがりて読むので、これは詩吟の七不思議の一つに数えられている。

明治中頃までのように、一句一息の吟詠であったらこんな矛盾は起きなかったであろう。

(句またがり)は、古典俳句ではお目にかからないが、現代俳句、とくに前衛俳句となると

当たり前であり、それがポイントともなる。

妻二夕夜あらず二夕夜の天の川 草田男

右の句は現代俳句での好例とされているが、

1、妻二夕夜 (五)

2、妻二夕夜あらず (七)

3、あらず二夕夜の (七)

4、二夕夜の (五)

5、天の川 (五)

朗詠としては、2・4・5と句またがりて読むことなく(そう読む結社もあるが)1・3

・5と定型のリズムに乗せた方が句が生きる。

○ 東の野 柿本 人麻呂

東の野にかぎろいの 立つ見えて

かへり見すれば 月傾きぬ

五段の審査課題。一般に定型で朗詠されているが、意味からすると「東の野に」で句切れ

(句切れとも)している。したがって、「東の野に」(七字)と句またがりする。(題名

も「東の野」に注意)。つづいて「かぎろいの 立つ見えて」も句またがりして「かぎろ

いの立つ見えて」(十字)とするのがよいとする説(斎藤茂吉・山本健吉)がある。旧教

本二(和歌の吟じ方)に「和歌朗吟の第一は歌の意味をよく汲み取る」とうたっている。

意味に重きを置けばそうであるが、詠法は朗詠集に拠るべきである。事のついでに、

審査会で「かへり・見すれば」と朗詠する者が少くないが「かへり見・すれば」が本当である(朗詠集)ので今後注意されたい。

(入念)

640 渡辺信代 逗子市山ノ根三十一一八

(逗子A) (電)〇四六八七三一九九二七

641 上村忠義 横須賀市佐野町三二二〇

(逗子A) (電)〇四六八七五三二一八四三三

642 大滝弘子 逗子市桜山四一四二二

(真澄) (電)〇四六八七一四九三七二

643 岡田紀子再鎌倉市城廻り二八三三三五

(真澄) (電)〇四六七一四八三三七三

644 大家恭子 逗子市池子二二六二一八

(銀詠) 〇四六八七二一〇三三四

645 畠山絹子 葉山町一色二五五〇一三〇三

堀内・A (電)〇四六八七六一六八五

646 田中範子 葉山町一色二〇〇一一

(一色A) (電)〇四六八七五一九六〇三

647 和光初江 横須賀市富士見町二一九

(銀甫) (電)〇四六八一四一六四九七

272 角田松風 (一色A) 623 高塚俊子(若葉)

庭の梅の花が散り、杏の花もいつの間にか散ってしまつて、今年の春は何かと忙しく、花を賞でるひまありませんでした。桜満開のニュースを横目でみながら編集しました。